

課題名 積雪寒冷地への早生樹「センダン・ユリノキ」の適応性について

福島県南会津農林事務所 五十嵐 正徳
福島県会津農林事務所 澁谷 恵子
NPO 法人会津の森林を育む協議会 島田 正義

1 課題を取り上げた背景

我が国の人工造林は主伐期を迎えた林分が充実してきており、伐って使う時代が到来しています。

森林資源の循環利用のためには、再造林コストを考慮し保育期間の短縮を図ることや、伐採から造林に至る一貫施業システムを構築し造林コストの軽減を図ることが喫緊の課題です。その中で成長の早い早生樹が次世代の更新樹種として着目されています。

2 具体的な取組

全国的にみると九州や西日本で早生樹の研究が先駆的に進められています。東日本の積雪地、寒冷地での早生樹の導入の知見は緒に就いたばかりであり、今後の研究成果に寄るところが大きいと考えられます。

西日本同様に、今後は東日本の積雪寒冷地への植栽について早生樹の中から生育可能な樹種を探索し、造林樹種として検証することが課題です。会津地域で採種が可能な早生樹を探索しセンダンとユリノキを選抜し、令和2年11月に採種、同月に播種しました。令和3年6月に発芽が確認され育苗すると、センダンもユリノキも発芽からの成長が早く、当年に植栽が出来ました。

3 取組の結果

令和4年春に生育状況を確認したところ、センダンは全て枯死しており失敗に終わったかに見えました。ところが、センダンの根茎は息づいており萌芽枝が発生し旺盛な伸長を示したところです。安堵もつかの間、再度越冬の際に頂芽付近が枯損被害に遭ってしまいました。被害部位直下から新芽が出ていることに気づき、枯損部を剪断し生育状況を観察してみることになりました。すると萌芽の成長が目に見て早く、芽掻きを行いつつ樹高が2年目で4m以上に達しました（図1）。ユリノキは針葉が展開し活着が確認でき、センダンに倣い芽掻きを行ったところ2m前後にまで伸長が促進されました（図2）。



図1 センダン



図2 ユリノキ

4 まとめ

センダンは植栽後の越冬時に枯損することが想定されるため、秋植えの場合には地際部から剪定し覆土を行うか、深植えを行い地際から5cm程度まで盛土し、融雪を待って翌年に枯損部を剪定して萌芽成長させることが好ましいと考えます。センダンもユリノキも芽掻きを行うことで上長成長が促進されることが体験できました。センダンの樹幹が枯損し新頂芽が伸長する際、枯損部の剪定が遅れると樹幹が歪曲してしまうため修復に時間を要することが懸念されます。これを改善する処方として、ポリエチレン製水道管凍結防止材を樹幹に装着して経過観察を行っています。